

## 第2回環境化学物質3学会合同大会参加報告

小栗朋子

産業技術総合研究所 安全科学研究部門  
305-8569 茨城県つくば市小野川16-1Report on 2<sup>nd</sup> Joint Conference on Environmental Chemicals

Tomoko OGURI

Research Institute of Science for Safety and Sustainability,  
National Institute of Advanced Industrial Science and Technology (AIST),  
16-1 Onogawa, Tsukuba, Ibaraki, 305-8569, Japan

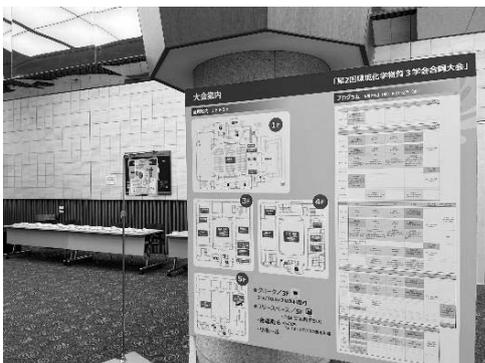
2023年5月29日(月)～6月2日(金)の5日間、あわぎんホール(徳島市)にて、第2回環境化学物質3学会合同大会(第31回環境化学討論会/第27回日本環境毒性学会研究発表会/第25回環境ホルモン学会研究発表会)が開催されました。

環境中の化学物質の分析と挙動、環境化学物質のヒト健康や生態系への影響、化学物質の生態系における影響分野について、異なる分野の研究者同士が広く議論し、分野横断的な研究を進めることを目的とした合同大会であり、本年度で2回目の開催となります。発表演題としては、昨年度に引き続きマイクロプラスチックやメタボロミクス研究に加え、今年度は新たに有機フッ素化合物(PFAS)の研究発表が目立っていたように思います。発表演題数は407演題(口頭発表160, ポスター227, その他20)であり、そのうち私個人が興味を持っている環境化学やヒトの健康に関する発表、高校環境化学賞受賞校の発表を聞いて参りましたので、いくつかご紹介したいと思います。

1) 室内環境としての車室空間の環境動態：継続的な曝露経路となりうる車室空間は、近年注目されています。臭素系難燃剤やVOCに関する報告がありました。

2) ヒトモニタリングによる曝露評価：有害化学物質の継続的な曝露情報を得るうえで重要である、ヒトバイオモニタリングに関するシンポジウム、体内動態モデル、バイオマーカーを用いた健康影響評価に関する発表がありました。手前味噌になりますが、我々のグループでは、健康な男女100名に対する介入試験を行い、日用品を介した化学物質曝露の体内動態を解析した報告を行いました。

3) 長野県北信地区の水の特性に関する発表：湧水と水道水中の硝酸態窒素等についてトリリニアダイアグラムを使って水質の特徴を捉えた報告がありました。高校環境化学賞の受賞校の報告です。説明して下さった高校生の方は水質の可視化することの重要性を認識されていて、私自身としても改めて科学の面白さを思い出させていただいた気がしました。



あわぎんホール入口



メイン会場